

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	大山魅力再発見事業			事業番号	21-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	経済環境部	田中 丈司	商工観光課	大町 徹	

計 画 (Plan)

総合計画体系	活力	まちづくり目標	3	個性豊かで活力あるまち		
		基本政策	6	産業の活力があふれる元気なまちづくり		
		施策展開の方向	2	多くの人が訪れる賑わいのあるまちをつくる		
		施策	21	伊勢原ならではの観光魅力づくり		
予算事業名	大山・日向地域活性化推進事業費					
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない	
事業開始年度	開始年度	平成25年度	～	終了年度	-	
関連法令等	-					
国・県の計画等	-			計画期間	-	
関連個別計画	-			計画期間	-	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	大山地域は、豊かな自然環境と貴重な歴史的資源を有する地域であるが、首都圏近郊という立地条件にも関わらず、年々宿泊客は減少し、日帰り観光客が中心となっている。一方、大山バイパスの整備が進められ、将来的には新東名、国道246号バイパスの整備、また(仮称)伊勢原北インターチェンジの建設も予定され、交通条件の飛躍的な向上が予測されることから、これを観光振興に結び付けて行く新たな取組が強く求められている。					
目的 (何をどうしたいのか)	「平成大山講プロジェクト(行政、大学、観光協会、地元関係団体、公共交通機関等が広域連携)」の事業を推進することで、大山の持つ魅力を再発見し、おもてなしの心をもって、悠久の歴史や安らぎを体感できる国際観光地を目指す。					
主な対象 (誰・何を対象に)	市内外から大山を訪れる観光客及び大山地域の観光事業者等					
事業内容 (手段、手法など)	・「平成大山講プロジェクト」を推進し、観光行事、イベントの充実・強化(四季を通じた誘客促進)、国際観光地を目指した外国人観光客受入体制の整備を中心に取り組みます。 ・行楽シーズンの慢性的な交通渋滞解消のため、警備業務を強化します。					
事業行程	項目	年度		28年度	29年度	
		観光行事、イベント	15イベント実施	15イベント実施		
	多様な観光がいの導入	多言語観光パンフ作成 案内板の整備	多言語観光パンフ作成 案内板の整備			
	外国人受入体制の整備	「おもてなし塾」の継続、大山国際化推進おもてなし補助金交付	「おもてなし塾」の継続、大山国際化推進おもてなし補助金交付			
目 標	【指標名】	【現状】	年度		28年度	29年度
			入込観光客数	110万人	112万人	113万人



事業実施(Do)へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	外国人を含めた観光客の受入環境の整備として、国や県の交付金を活用したWi-Fi環境の整備やこま参道のバリアフリー対策、多客期の交通渋滞対策などに取り組むとともに、昨年リニューアルしたケーブルカーやミシュラン・グリーンガイドにも紹介された「眺望」、大山が持つ自然や歴史・文化を活用した誘客事業を地元や事業者と協働して推進する。		
実施方法 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> すべて直接実施 <input checked="" type="radio"/> 左記以外		
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者 (一社)伊勢原市観光協会
	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金		補助先 旅館、飲食店、商店等
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容
実施結果	項目	年度	
		28年度	29年度
	観光行事、イベント	20イベント実施	
	多様な観光が이드の導入	多言語観光パンフレット・マップの作成、大山インフォメーションセンター外国語案内の実施	
外国人受入体制の整備	「おもてなし塾」の開講、大山国際化おもてなし事業補助金の交付、Wi-Fi環境の整備、多言語に対応する観光アプリの開発		
実施した取組の内容	誘客イベントを多数実施するとともに、観光客の受入環境整備における新規の取組として、紅葉シーズンに山王中学校に臨時駐車場とシャトルバスの発着所を設置したほか、大山インフォメーションセンター外国語案内業務の実施、国や県の交付金を活用したWi-Fi環境の整備や多言語に対応する観光アプリの開発・提供、こま参道の手すりの整備等を行った。		
目標の達成状況	【指標名】	【現状】	年度
			28年度
	入込観光客数	110万人	111万人

年度		28年度 実績				29年度 実績			
内訳	事業費合計 (a)	69,690		千円			千円		
	国県支出金 ①	59,606		千円			千円		
	地方債 ②	0		千円			千円		
	その他特財 ③	0		千円			千円		
	一般財源 (a)-①-②-③	10,084		千円			0 千円		
国県支出金の内容		地方再生加速化交付金(補助率 国10/10)、新たな観光の核づくり交付金(補助率 県10/10)、神奈川県市町村自治基盤強化総合補助金(補助率 県1/3、市2/3)							
コスト	その他特財の内容	受益者負担	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		前回の改定時期				
		その他							
人件費	正規職員	1.5	人	12,975	千円		人		千円
	その他の職員	0	人	0	千円		人		千円
	人件費合計 (b)	1.5	人	12,975	千円		人		千円
トータルコスト (a)+(b)				82,665	千円				千円
単位当たりコスト	対象数	定義	市内の観光客数		単位			単位	
		対象数	1,111,002		人				
	総事業費 / 対象数	74		円				円	

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	誘客イベントの実施及び観光客の受入環境整備において、計画以上の取組を実施した。また、その中で国県補助金・交付金を活用した取組を実施した。
実施水準 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	A	他都市事業内容等	神奈川県が進める「新たな観光の核づくり事業」に、本市(秦野市、厚木市の一部を含む)の他に三浦市、大磯町が認定されている。新たな観光の核づくり交付金を受け、他市に比較して高い水準で観光振興に取り組んだ。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	行政、民間団体、民間企業、大学等の連携により、目的達成に向けた各種の取組を進めることができた。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	国県補助金・交付金を活用し、事業を実施した。また、業務を委託することで、効率的に事業を実施した。


 取組の改善 (Action)へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	国内外から多くの観光客を迎え入れるため、案内板の外国語併記等の環境整備をさらに進めることのほか、高齢者対策としてバリアフリー、ユニバーサルデザインの取組が必要である。
次年度の取組方針		平成28年4月に「大山詣り」が日本遺産に認定されたことを契機に、日本遺産を観光振興に生かす取り組みを進めることとなる。また、平成大山講プロジェクトをより一層推進し、観光行事・イベントの充実・強化を図るとともに、国際観光地を目指した外国人観光客の受入体制の整備を中心に取り組む。併せて閑散期における集客や渋滞対策・駐車場対策への取組を進めていく。		
所管部長による総評		これまで国県補助金・交付金等を積極的に活用し、本事業を実施してきた。今後は取組を継続しながら、従前からの課題である閑散期における集客や渋滞対策・駐車場対策への取組を進めるとともに、新たな課題である日本遺産を観光振興に生かす取り組みを推進し、国内外から多くの観光客を迎え入れ、地域活性化を目指していく。		